時局日誌（十六）

Y　H　生

十一月十七日　大別山中の殘敵掃蕩戰は着々進捗し我が小野快速部隊は十七日午前十一時十分麻城、英山中間の敵據點羅田を陷れた。同地に據つた敵軍は廖磊指揮下の部隊で我が奇襲に遭ひ、大別山中に遁走した。

十六日夜下界河西岸地區の頑敵を擊滅後、星明を利して敵前渡河を敢行した小野快速部隊は十七日黎明と共に北西の兩側より羅田縣城に殺到午前十時敢然西門より突入之を占領し尙も敗敵を北方に追擊中である。

十一月十八日　廣東攻略に驚異の戰果をあげ、中外に赫々たる武名を唄はれた古莊幹郎中將は病氣の關係を以て參謀本部附を仰付けられ後任南支方面最高指揮官には第五團長安藤利吉中將が親補せられた。

十一月十九日　大別山中に五個師を擁して立ともり盛んにゲリラ戰術に出て我が軍の後方攪亂を企圖してゐた敵の本據英山は遂に十九日午前十一時二十五分我が軍の猛攻によつて陷落した、英山を屠つた我が軍の一部はその東方十キロ、棗柿嶺方面に、一部はその東方八キロ楊家橋に、なほ他の一部は敵の退路を遮斷するため英山西方八キロ石橋舖を過ぎ北方に向つて猛進擊しつゝあり、大別山中の殘敵掃蕩戰は峻烈に行はれてゐる。

十九日午前七時過敵最後の抵抗陣地石橋舖を奪取して里見部隊は息つく暇もなく三里の嶮路を敗敗を急追して英山目指して一氣に驀進し同十一時二十五分高橋（虎）部隊を先頭に怒濤の如く西門より突入間もなくこれを占領した、敵は十八日薄暮より十九日未明にかけて羅田、英山街道を扼する天嶮石橋舖の堅陣によつて死物狂ひの抵抗を試みたが十九日午前七時里見部隊勇士の曉の突擊戰に一堪りも

なく潰滅し東及び北の二路に分れて潰走里見部隊は敗敵を追擊しつゝ一氣に英山縣城に突入したものである。

十九日午後四時英山城外に達した〇〇部隊長は一番乘殊勳の勇士の堵列裡に西門の把青門より颯爽と入城、城内の中山記念堂前庭に於て東天を拜し萬歳を唱へ晴の入城式を終つた。

十一月二十日　我海軍航空部隊は中支方面に於て宜昌附近の軍事施設南支方面に於ては武鳴及び南寧の兵營等に爆擊を加へ多大の損害を與へた。

十一月二十一日　鐵屑配給統制規則（商工省令第九七號）公布

東東南方東江岸地區の殘敵掃蕩中の我〇〇部隊は十九日石龍南方峽口、澳頭口附近において又〇〇部隊の一部は增步周塘附近においてそれ〴〵迫擊砲、機關銃を有する一千餘の敵を攻擊二十日これを追擊して同日午前九時半遂に東莞を占領した。

十一月二十二日　石油業法施行令中改正（勅令第七三三號）銅、鉛、錫等配給統制規則（商工省例第九九號）公布

杭州灣上陸の勇將北支方面海軍最高指揮官となつて現第二艦隊司令長官豐田貞治郎海軍中將は歸還された。

徐州東南方敗敵掃蕩中の北川、高見、齋藤玉田各部隊は睢寧の掃蕩後更にその東北方宿遷を衝き、二十二日天明を期して追擊を開始午前七時國枝部隊の爆擊と呼應してその一部は北方地區より、又久納等の快速部隊は南方地區に待機、諸部隊緊密に連絡し二千の敵を猛攻。

十一月二十三日　昨二十二日南支方面に於て海軍航空隊は佛岡附近（廣東省）を攻擊し倉庫三棟を爆破部落より遁走せる敵兵數十名を射殺せり、又鬱林（廣西省）攻擊部隊は市内の軍用諸官衙を爆擊し大型建物三ヶ所を炎上せしめた。

十一月二十四日　軍は本二十四日岡崎總領事の手を經て在廣東英國總領事宛左の通告を發せり。

南支派遣軍は華南地方の殘敵掃蕩の爲東江南岸地區の討伐を開始せり、敵情に依り英國租借地境近くまで兵力を進むるのやむを得ざることとなれり、然れども貴國と不慮の事故を發生せしめざることについては一兵に至るまで嚴に注意しあるところなり、曩に貴國より在香港石野大佐へ申出ありたるを以て軍は作戰上の不利をも顧みず茲に將來の行動に關し通告するを以て貴國においても我が方の眞摯なる態度に對し協力せられ度要請す。

南支派遣軍は昨二十三日以東江南岸地區に蟠居する殘敵の掃蕩を開始せり。

日本軍は英支國境を距る數哩の寶安縣地方に敵前上陸支那自衞團と激戰の後太平墟を占領した、太平墟は大通灣に臨み

廣九線の深圳から十二マイル香港國境から約五マイルの地點にあり日本軍は同地占領後深圳に向つて進擊を開始したと外紙は報ぜり。

日本飛行機は四日朝廣九線深圳上空に飛來し宣傳ビラを撒布した、深圳には目下避難民や負傷兵が續々到着してゐる、右の宣傳ビラには日の丸を描き民衆に抵抗すべからずと警告し汝等の戸口に貼付けよ戸外に出づるべからずと書いてあると外紙は報ぜり。

十一月二十五日 條約第八號文化的協力ニ關スル日本國獨逸國間協定

大日本帝國政府及獨逸國政府ハ

日本文化及獨逸文化ガ一方ハ日本ノ固有ノ精神ヲ他方ハ獨逸ノ民族的及國民的生活ヲ其ノ眞髓トスルニ鑑ミ日本國及獨逸國ノ文化關係ハ茲ニ其の基調ヲ置クベキモノナルコトヲ嚴肅ニ認メ

兩國ノ各種ノ文化關係ヲ深カラシメ且兩國國民ノ相互的智識及理解ヲ增進セシメ以テ既ニ幸ニ兩國ヲ結合スル友好及相互的信頼ノ關係ヲ益々鞏固ナラシメンコトヲ欲シ左ノ通協定セリ

第一條

締約國ハ其ノ文化關係ヲ堅實ナル基礎ノ上ニ樹立スル爲努力スベク相互ニ右ニ付最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第二條

締約國ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲學術美術、音樂、文學、映畫、無線放送、青少年運動、運動競技等ノ方面ニ於テ兩國ノ文化關係ヲ組織的ニ增進スベシ

第三條

前條ノ規定ノ實施ニ必要ナル細目ハ締約國ノ權限アル官憲間ニ於テ協議決定セラルベシ

第四條

本協定ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施スベク締約國ノ一方ハ十二月ノ豫告ヲ以テ本協定ヲ廢棄スルコトヲ得

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ署名調印セリ

昭和十三年十一月二十五日東京ニ於テ日本語及獨逸語ヲ以テ本書二通ヲ作成ス

大日本帝國外務大臣　有田八郎㊞

獨逸國特命全權大使　オイゲン・オット㊞

兵役法施行令第三十四條第二項ノ規定ニ依ル認定ニ關スル件（陸軍文部省令第一號）

揮發油及重油販賣取締規則中改正（商工省令第一〇〇號）

毛織物製造制限規則（商工省令第號一〇一號）公布

我が〇〇部隊は頑强に抵抗する敵を徹底的に叩きつけつつ二十二日徐州東南方百餘キロの宿遷を占領したが。

敵は第三十三師並に共産第八路軍で敵の遺棄死體は二千に上り我が鹵獲品は迫擊砲四機關銃三、チェコ機關銃、十手榴彈二百、彈藥四萬發、小銃四百に達し尙此の戰鬪に於て敵聯隊長劉震黃、胡文臣の兩名は遂に戰死した。

待望の武漢治安維持會發會式は愈々二十五日漢口舊英租界にある舊漢口商業銀行で擧行、丁度一ケ月前のこの日は漢口に日章旗が突入した輝かしい記念の日である、一ケ月前迄靑天白日旗が抗日容共の赤色政權の夢を貪つてゐたが今こそ堂々と親日防共の五色旗が揚子江を壓して全武漢を蔽ふのだ、我が軍が武漢三鎭を占領してから僅一ケ月、茲に武漢は完全に明朗色を取り戻し新しさ新政治生活に入つた。

十一月二十六日　十六日朝の英支國境における英國警官隊と支那兵の小競合に關し詳報によれば右事件は沙頭において起り約五百の支那兵は憤慨して英國の國境監視所を襲はんとしたが双方の自制により辛うじて大事に至らずに濟んだと傳へられる。

香港テレグラフ報道によれば本日午前日本軍は九龍國境を距たる三マイルの地點にあいて殘敵を掃蕩中で日本軍飛行機は猛烈なる爆擊を行ひつゝある、又昨夜九龍國境を突破せんとし支那兵二百名はイギリス軍のため武裝を解除されたと傳へてゐる。

十一月二十七日　二十六日午後三時頃〇〇部隊の宮崎部隊は深圳に向ひ急進中、深圳南側の支那軍所有の無線電信處より猛烈なる射擊を受けたるをもつて直に攻擊これを占領。

宮崎部隊が深圳に入城するや城內二ケ所に火災起れり、何れもキリスト敎敎會堂にして支那軍はこれに放火し、國際問題を惹起せしめんとの魂膽なりしこと確證を得たり、宮崎部隊は少數の警戒兵をもつて城內要所を警戒せしめ、主力は城外に露營

英國租界に向ひ逃走せる支那軍は英國官憲の手によりて武裝を解除せられあり租界內に避難せる支那民衆の數は相當多數なるものゝ如く租界內の避難民收容所に充滿せり。

十一月二十八日　昭和十三年勅令第三百八十八號臨時通貨ノ形式等ニ關スル件中改正ノ件（勅令第七三四號）公布

揚子江南岸に蟠居する敵第二十三集團軍（唐式遵麾下四川軍精銳約七個師）擊滅の重任を帶びた志摩、石谷、小松、桑原、原田の各部隊は海軍荒鷲部隊、〇〇部隊と緊密な協力の下に二十五日朝から一齊に行動を開始、主力は二十五日正午大通東北方約一里の籐山山麓に壯烈な敵前渡河を敢行、巨岩累々たる籐山山麓を目指して堂々と進擊五峰山、直山に據る

頑敵を一擧に制壓、二十六日午後二時銅陵縣を占領、續いて中支有數の鐵の寶庫銅官山に輝かしい日章旗を打ち立てた。又他の一隊は二十六日朝銅陵縣東北方約七里の荻港からクリークを纒つて西南方に猛進し、同日夕刻要衝順安鎭を占領、こゝに久しく我が江上進擊作戰を脅かした同地區一帶の敵據點は悉く我が軍の有に歸し、揚子江上の治安は急速に明朗化することとなつた。この戰鬪における敵の遺棄死體三百、我が方は捕虜約五百、機關銃小銃等多數鹵獲したが味方の損害は戰死三名、負傷四名であつた。

房總半島を兩斷する利根の大運河計畫が二十八日午前五時大藏、內務兩省の豫算折衝で承認され、愈利根大運河の實現を見ることになつた。

利根運河計畫は內務省で總工費九千萬圓を要求したが大藏省が承認したのは五千百二十萬圓で十五ヶ年繼續事業といふことになり、大運河は最初の計畫通り出來ることになつたわけである。この運河は茨城縣坂手町附近から利根川の水を流して千葉縣船橋市附近で東京灣に注ぐことになるが川幅は五四五米乃若九一〇米また船橋市地先海岸には千二百ヘクタールの工業地帶埋立地を造成し印旛沼平賀沼には三千ヘクタドルの開拓を行ふことになつてゐる。

本州と九州を繼なぐ關門海底國道につき內務省では產業並に軍事上重要性があるので總工費千七百萬圓四ヶ年繼續事業として豫算を大藏省に要求したが一應抹殺され、更にその復活要求を試みた結果二十八日午前五時に至り大藏省は十ヶ年計畫とし明年度から本工事に着手することを承認した。

頻發する水害を防止するために河川改修と並行して大規模な砂防計畫を立て府縣に對して一億八千萬圓の補助費を交付するために大藏省に豫算要求の折衝を續けてゐたが結局七ヶ年計畫として砂防補助費四千百八十萬圓を支出することに決定、明年度議算にはこれが初年度分三百二十二萬圓が計上されることになつた。

十一月二十九日 文官俸給支給細則中改正（大藏省令第六六號）、農會法施行規則中改正（農林省令第四三號）公布

揚子江航行再開に關して關係各國間に種々論議あるに鑑み、及川支那方面艦隊司令長官は二十九日在上海各國艦隊の先任指揮官に對し同問題に關するわが現地陸海軍當局の見解を通告すると共に併せて蕪湖上流にある各國軍艦にして希望せらるゝならば一回限り下流にある軍艦との交代を認むる旨申入れた、各國軍艦は蕪湖まではわが方に對しその移動を通告する事によつて航行してゐるが蕪湖上流にある米、英、佛軍艦七八隻は支那軍の揚子江閉鎖以來十數ヶ月に亙つて下流と

の交代を行ひ得なかつたので、特に今回希望あらば一回限り下流との交代を認むる事になつたものである、尙現地陸海軍當局では同日通告せられたる航行問題に關する見解と同樣趣旨の當局談を發表した。

十一月三十日　防共と文化の協定に固く結ばれる日獨の空を眞一文字に驀進また驀進した盟邦ドイツの親善訪日機、機長ヘンケ大尉以下六名乘組の「コンドル機」は霜凍る三十日夜十時十分五十二秒爆音高らかに最終目的地立川陸軍飛行場の眞中に一線鮮やかに引かれたゴールライン上を通過し、こゝに燦たる立川到着が記錄され、かくて場の上空を三周の後見事日本の大地に其の車輪を印した。時に十時三十四分二十四秒、盟邦機を迎へて萬全を期した夜間照明に、美しくも力强く描きだされたその鵬翼……去る二十八日午後十一時五十分（日本時間、假公認時間）ベルリン・テンペルホーフ飛行場を勇躍立つた「コンドル機」は科學の粹とドイツ魂を世界に誇示しつゝ快翼こゝに四十六時間二十分五十二秒、ベルリン——東京間一萬四千百八十キロの南方空のコースは、僅に二日以內といふ驚異的國際記錄にぴつたり結ばれたのだ。

十二月一日　近衞首相は一日の樞密院における興亞院官制案第二回審査委員會において前回保留された南顧問官質問たる支那事變終了の時期に關し左の如く答へ帝國政府の方針を明示した。

今回の支那事變は日淸、日露兩戰役の如く急進的な武力のみにて解決することは困難で慢性的推移を以て終了するものであり敵對行爲終熄と治安の回復のほか一方建設工作を進めて行く所のその時期がハツキリ見透しがついた時が卽ち事變終了の時期である。換言すれば日滿支共同して新建設についた時が事變終了の時期と考へる、國民政府の內容も頗る複雜であり國民政府そのものが擧げて解散して新政府に參加して來れば割合に早く事變が終了するであらう、而し國民政府の內部には共產黨系や國民黨等があり、決して一時にハツキリと事變終了することはあり得ないと考へる。從つて順次に建設の見透しのついて來るのを或る時期に認定して事變終了と認めた上何れ勅裁を仰いで決める方針である。

大藏省に於て各省要求に對し同意を與へたる明年度豫算の歲入歲出概算の內譯及び各省別豫算概算は左の如くである。

（單位千圓）

歲　入

經常部　二、三七〇、〇〇〇
臨時部　一、三二〇、〇〇〇
（內）普通歲入四二七、〇〇〇▲公債
金八〇九、〇〇〇▲前年度剩餘金繰
入八八四、〇〇〇

會計	三、六九四、〇〇〇
歳出	
經常部	一、九六〇、〇〇〇
臨時部	一、七三〇、〇〇〇
合計	三、六九四、〇〇〇

〔備考〕計數整理の結果多少の異動あることを免れず、又端數切り下げのため多少異動あり

△各省別

皇室費	四、五〇〇
外務	五五、〇〇〇
内務	二九一、〇〇〇
大藏	一、三〇六、〇〇〇
陸軍	四九五、〇〇〇
海軍	六五三、〇〇〇
司法	五二、〇〇〇
文部	一五五、〇〇〇
農林	一四四、〇〇〇
商工	七六、〇〇〇
遞信	二七八、〇〇〇
拓務	四六、〇〇〇
厚生	一三一、〇〇〇
計	三、六九四、〇〇〇

十二月二日 南支派遣軍では二日薄暮より潭洲水道を南方に渡河、廣東南方三角洲地區の掃蕩を開始した。即ち軍は蟻に廣東を占領すると共に蔣軍間の武器彈藥等軍需品の重要輸送路たる廣九鐵道及び廣東三水間諸水道の要點を扼守したが、これがため、支那側は窮餘の策として西江下流より高明附近を經て肇慶方面に新ルートを求めこゝより監んに軍需品を輸送しつつあり而も廣東南方デルタ地帶には今尚優勢なる敵軍が存在してゐるのでこれを撃滅し、以て敵の輸送路を拔本塞源的に遮斷するため愈々今同の大掃蕩が開始されたものである。午後二時頃には湖北省東南隅通山附近に迫撃砲を有する殘敵約二千が來襲し來つたので、我が軍は巧なる機動戰により、その背後を强襲し敵に殲滅的打撃を與へた、敵の遺棄死體七百又漢口西北方京山方面においても同日午前十時頃迫撃砲を有する敵約一千來襲せるも我は勇敢にこれを攻撃直ちに敵を西方に潰走せしめた。

十二月三日 前早大總長、從三位勳一等、貴族院議員、高田早苗法學博士は去月二十四日腸カタルで帝大坂口内科に入院手當中のところ老衰の爲カタル性肺炎を併發、三日午前二時四十分逝去した。行年七十九。

南支派遣軍は三日午後零時十分九江に突入、午後三時之を完全に占領。

我が飛行隊〇〇機は二日正午頃桂林を襲ひ同市内の諸軍事施設に對し〇〇個の爆彈を投じたこれがため同市の南門停車場その他においては火災が起り敵の被害甚大である。去る三十日の大爆撃に引續き二日の爆撃で敵車の死傷數千人に達し同市は目下大混亂を呈してゐると傳へら

れてゐる。更に他の一隊〇〇機は二日梧州を經て柳州を襲ひ軍事施設に猛爆を加へた、尙第五路軍總司令李宗仁副司令白崇禧は「廣西衆に告ぐるの書」を發表し廣西省民がその勇敢さと平素の訓練を十分に發揮し非常時局に對處するやう要望した。

十二月四日　北支後方戰線に奮鬪する敵遊擊部隊を打破つた北支方面の各部隊の七月以降十一月までの總括的な成果が今同發表された。これによると敵の遺棄死體は五拾七千七十九民捕虜二千九十、大別して先づ京漢線沿線（石家莊以南）は前者が一萬千七百三十一、後者が二百八十六、同滿線では前者の三萬八千六百五十六に對し後者は二千六百三十七、正太線では前者が五千九十二、後者が百六十七といふ數字を示してゐる。

横綱玉錦西内彌吉氏は大阪日生病院に於て病死す、年三十八。

十二月五日　國民體力管理制度調査會官制（勅令第七四一號）

電氣用品取締規則第三條ノ特例ニ關スル件（遞信省令第八〇號）公布

武漢、廣東の攻略戰後も追擊の手を緩めざる我陸海航空部隊は或は地上進擊部隊と協力して敗走する敵に爆擊を加へ、或は敵軍集結地を連續爆擊してこれを壞滅し、或は敵軍事施設高等司令部を破碎し、或は遠く敵の背後を衝いて軍事交通の要衝に徹底的打擊を與へ敵再建空軍根據地を奇襲してその擊滅を計る等その縱横無盡の活躍は端倪すべからざるものがあるが、陸海荒鷲の今日までの飛翔爆擊範圍は實に南北二千百キロ、東西一千二十キロ、その面積一萬三千七百平方キロに及び西部十省を覆ふ、その爆擊のあとは次の通りである。

十二月六日　五日夜九江に假泊した米國海軍ルソン號及び佛國軍艦アミラルシャルネル號は六日午前七時半九江を出發し我が護衞艇三隻に守られ再び下航した。途中安慶、蕪湖、南京、鎭江の各地に寄港上海に向ふ筈で上海着は八日頃の豫定九江より同行の豫定であつた米艦モノカシー號は同艦に便乘の廬山下山者の到着が遲れたため出發を延期した。

文部省では氣象觀測が航空、航海、水産、農産、土木、保健、衞生、災害防止國防等に密接な關係を有し、殊に近年航空界の發達及び産業の振興には著ろしい關係があるに鑑み、この際地方府縣の氣象觀測所を國營として全國的に統一を圖べきであるとしてこれが實現に乘り出した。これで全國の觀測所は全部文部省の管轄に移管されることになつたわけで、これがために全國の觀測所は一元的に統一され多年の懸案がいよいよ實現することゝなつたわけである。よつて文部省では全國を四つの氣象管區に分けその中心

を東京、札幌、大阪、福岡の各地におさ更に地方的中心地として札幌、仙臺、東京、新潟、名古屋、大阪、鳥取、福岡、沖繩の九ケ所を擧げ、各地の連絡、統一に當らしめんとして準備が進められてゐるがこれが實施は明年十月頃になる模様

連日に亙つてオルドス上空を飛翔敗殘兵傳作義軍に大打擊を與へた陸の荒鷲永持部隊の〇〇機は五日午後一時半東勝西方六〇キロ阿克善溝に遁入した約一千の敵を急襲爆擊多大の効果を收め全機無事〇〇基地に歸還した。

十二月七日 陸軍航空總監部令（軍令陸第二一號）公布

六日我が室谷部隊は藤田神速部隊と協力し山西晉運城西南方二十五キロの三路李村に蟠踞する山西の殘敵で最優勢といはれる教導第三師二百五旅の第一、第二團、第七師及び軍事教導第三團等山西の大兵團約八千を奇襲西南方より突如包圍態勢をとりアツといふ間に突入七日早朝まで凄まじい白兵戰を交へ文字通り殲滅戰に凱歌を擧げた。

十二月八日 天皇陸下には八日長くも三宅坂の大本營陸軍部に行幸遊ばされ、未曾有の長期戰下にあつて繁忙極まる用兵作戰の激務に御盡瘁あらせられる閑院幕僚長宮殿下を始め奉り諸官の辛勞を親しく御犒ひ遊ばされた。

大場鎭大表忠塔の除幕式は江南戰線陣歿勇士の靈祀る招魂祭と併せ八日いとも出盛大に擧行された、この日先づ陸軍部隊に續いて海軍陸戰隊員が隊伍堂々と式場に入場騎兵大佐の御正裝凛々しき賀陽宮邇下を始め奉り、畑中支軍最高指揮官代理〇〇少將が正面忠靈塔間近く着席午前十時半、除幕式の儀が行はれた。終つて會場の一隅に設けられた祝宴場において野戰式のさゝやかな祝宴が備された。

廣東西方デルタ地帶の樞要據點九江攻略に伴ふ西江左岸地區の戰鬪に於ける我戰果は次の通りである。遺棄死體一千を下らず、擊沈汽船六隻、同ジャンク三十隻、軍用倉庫の爆破十棟、鹵獲汽船一隻、同ジャンク數十隻、同兵器彈藥多數。

八日午前六時三十六分臺北飛行場を出發した內臺航路上に便富士號（ダグラスDC2型、乘務員四、旅客十四人乘り）は同七時四十五分頃より右發動機に故障を生じ辛うじて飛行中同九時十二分SOSを發し更に同二十分那覇西方約三十キロ慶良間列島南端久場島の西方十キロの海上で第二回目のSOSを發したまゝ消息不明となつた。那覇より鹿島丸、たいほう丸（兩船とも約二〇トン）は午前十時警察官、那覇飛行場長、會社關係者等を乘せて那覇を出發した。

有田外相は八日外務省に英米兩大使の來訪を求め午前十一時より約一時間にわたつてグルー駐日米大使と又午後三時よ

り同四時半に至る間クレーギー駐日英大使と東亞の新事態を中心として會談を遂げた、今回の有田外相とこの英米兩大使との會談は去月行はれた會談の續行の意味もあるが、英米兩國が佛國と共同歩調の下に當面の重要懸案としてとりあげた揚子江自由航行問題等の具體的懸案の折衝でなく、之ら折衝に際し言及された帝國不動の方針を有田外相よりさらに敷衍的に說明、東亞新秩序建設に對する帝國の熱意と責務並びに支那における門戸開放、機會均等に關する帝國の方針を率直に闡明したことにおいて十一月十八日附對米回答と對應して、帝國外交上劃期的なものとして重視されるものがある、即ち支那に於ける第三國關係の調整は列國に於て東亞の新事態を正當に理解することがその前提要件たるべきである建前から有田外相は八日の英米兩大使との會談にて

一、東亞新序の建設は東亞永遠の和平確立を冀求する日滿支三國共通の內在的宿望であり、日滿支三國の政治、文化、經濟、軍事の各分野に亙る緊密な提携に基く東亞新秩序の建設によつて赤化の脅威を防止し、國家的生存權を主張するは現下の日本國民の要望である。

一、而して東亞の新事態は支那に於ける新政權の誕生と自主權回復の正當なる要求によつて東亞を列國の半植民地化した九國條約等の舊國際體制を事實上解體せしめてをり九國條約の所謂門戸開放機會均等の原則せこの東亞の新事態にそのまゝ即應するものでなく、これが適用に當つては當然修正さるべきものである。又東亞新秩序建設に對應する日滿支經濟提携の確立に伴ふ所謂東亞經濟ブロックは東亞の經濟的門戸を列國に閉鎖すると云ふ意味でなく帝國政府としてはこの東亞經濟ブロック

の結成によつて第三國との經濟關係を阻害する意圖は毫も無く却て他の經濟ブロック乃至は各國との經濟關係の促進を期待するものである

との趣旨を以て主として東亞新秩序建設に對する帝國の態度並びに支那に於ける新門戸開放の原則乃至觀念の二點に亙つて十分の說明をなした、英米兩大使はこれに對し本國政府への傳達方を考慮する旨答へ會談を終つた。

十二月九日　青年學校教授及訓練要目中職業科ノ要目（文部省訓令第二七號）公布

北支方面最高指揮官寺內壽一大將は軍事參議官に親補せられその後任として軍事參議官たりし杉山元大將が親補せられたり。

（一）一昨日南支方面に於て海軍航空隊桂平攻擊部隊は內陸一帶を掩へる密雲を突破し桂平、貴縣（廣西省）方面偵察攻擊を敢行桂平方面に在りし敵軍用舟艇五

十隻を認めこれを爆擊十數隻を爆破飛散せしむ、又桂平市街の軍事施設に多大の損害を與へたり、なほ北江方面に向へる一部隊は清遠下流に於て敵砲艦一隻及び小型軍用船一隻を爆擊これを大破せしめたり。

(二) 昨八日南支方面に於て海軍航空隊の一部は粵漢線樂昌を攻擊し機關車二輛、貨車十五輛を爆破線路數個所を切斷せる外他の攻擊部隊は英德及び清遠附近に於て敵軍用舟艇數隻を粉碎せり。

我が陸軍荒鷲部隊は本九日粵漢線彬縣以南にありし敵鐵道輸送機關を猛擊し機關車七輛客車貨車約六十輛及び重要施設を破壞せり。

八日湖南省東北省境の南江平江道路を往來する敵軍大部隊及び自動車隊に對し我が陸の荒鷲は又しても果敢な低空攻擊を行ひ大損害を與へた。

揚子江の第三國軍艦交替下江のトップを切つてアメリカ揚子江艦隊旗艦ルソン號が支那奥地より十五名のアメリカ商人と宣教師を乘せて漢口から下江、九日正午上海へ入港した。

十二月十日 陸軍では陸軍航空總監部の創設を機として劃期的な陸軍航空陣容の整備强化を圖ることとなり、東條陸軍次官の初代航空總監親補を始め多田參謀次長の第一線要職轉出等軍政、軍令、教育各方面に亙り相當廣汎な異動を斷行した。

陸軍中將	東條英機
親補陸軍航空總監	
同	東條英機
兼補陸軍航空本部長	
同	山脇正隆
任陸軍次官	
同	中島鐵藏
補參謀次長	
同	小須田勝造
補陸軍造兵廠長官	
陸軍大佐	佐藤賢了
補濱松陸軍飛行學校教官兼研究部部員	
陸軍少將	飯村
補陸軍大學校校長	
陸軍砲兵大佐	清水盛明
補陸軍兵器本廠附兼軍務局附大本營陸軍報道部長被仰付	

わが北支各部隊の息もつがせぬ大討伐戰に各地の敗殘軍は至るところで殲滅的な打擊を受け動搖を來たし幹部の投降者が續出してゐる、先般の〇〇部隊の河曲(山西省西[illegible]部)の作戰、五寨(河曲の東南方)攻擊の際、山西第二遊擊隊督戰司令趙金鰲中將が單獨投降し、また十一月二十八日には我原口部隊に第三十五軍二十一旅遊擊隊長張恒昇少佐が同く歸順して來るなど支那軍幹部の焦燥は日に日に色を濃くしてゐる。